

広報

のあさひ

No. 364

'87

3/15



寒さに負けず、空手道の練習に励む
水本小学校の子どもたち



「気象の異変で雪のない冬。行政にも「変化の時代」が来た（役場庁舎）」

行政改革は、町発展の土台づくり

実施計画書策定 動き出す行政改革 「お目付役」行政改革推進審議会が発足

昭和六十年五月、町長の諮問を受けた町行政改革推進委員会（会長・海野富太郎）が発足し、六十年十二月に「行政改革大綱」が答申されました。町ではこれを受けて、昭和六十一年度からの具体的な実施計画について検討してきましたが、このたび「行政改革実施計画書」として策定しました。

これらの計画が適正に実行されるか、監視していく役わりをもつ「町行政改革推進審議会」が、去る三月三日に発足し、いよいよ町の行政改革が動き出しました。

今月は、これまでの経過を紹介しながら、町の行政改革の内容をお知らせします。

行政改革のめざすところは

今日、地方行政を取り巻く環境としては、人口構成の高齢化、価値観の多様化、ハイテク化、国際化、高度情報化等の中で、二十一世紀を展望しつつ、地域の特

性を生かし、歴史的、伝統的文化と自然風土を活用した、新たな町づくりの展開が期待され、積極的にその役割を果たしていくことが要請されております。

こうした社会経済情勢の変化に伴い、町としても今後、家族旅行村の整備と活用、後継者対策、生涯教育の充実、高齢者対策、新しい農業の創出、地域経済の活性化など新たな課題に対応していかなばなりません。このような中で、当面す



会長 海野富太郎さん
(大町)

「行政改革大綱の取りまとめにあたった者としてその具体的な推進を、お目付け役として見守っていきたい」

審議会委員の顔ぶれ



行政改革を実施するにあたって町の基本姿勢を説明する
小林富蔵町長

最大の課題が行政改革の推進と町財政の健全化です。それには、行政の減量が必要で、減量というのは町民にたいするサービスを減らすことではなく、よりよいサービスをするための、行政の「ぜい肉」を取り除くことを意味しています。すなわち、行政サービスが同じなら少しでもそれにかかる費用、コストを下げて、それによって浮いた財源を他の住民サービスに振り向けることです。

町行財政の現状

一、財政の硬直化傾向

昭和六十一年度予算の状況を見ると、自己財源である町税は一三・九%にすぎず、年々国、県への依存度を高めています。それに加えて道路や学校の建設、生活環境の整備など投資的事業に向けられる経費は、年々減少傾向にあります。

また、町がこれまで各種事業のため借入した、元利償還金に向けられる公債費は、町税を上回り、財政の硬直化を深めつつあります。

二、職員数の増加

現在の職員数は百九十六人で、条例で定める定員数を下回っていますが、類似団体との単純比較では、二十五名ほど多くなっています。この二十五名の内容については、学校、出張所などの出先機関等の数及び団体の政策上の理由などによっても異なりますが、一応の参考になるものであり、更に今後五年間に、定年退

職となる予定者が四名にすぎず、人件費の増加と職員の高齢化が一層進むことが予想されます。

三、組織、機構の肥大化

現在の行政機構は、高度経済成長時代の、行政需要の増加による組織の肥大化とともに、近年の行政事務の多様化、複雑化、専門化傾向に対応して形づくられてきており、これらの事務を見直し、機構を縮少し、人員の削減を図る必要があります。

行政改革大綱の方針

以上のような町の行財政の現状をふまえて、町行政改革推進委員会から答申された行政改革大綱は、その方針として次の五項目が取り上げられました。

- 一、事務事業の見直し
- 二、組織、機構の簡素合理化
- 三、給与等の適正化
- 四、OA化の推進と民間委託等の促進
- 五、公共施設及び管理運営

の見直し

このような改革をすることにより、行政内部における経常的業務に必要な経費（人件費・物件費・維持補修費・補助費・公債費など）を削減し、現在かかえている課題を解決し、今後予想される道路、学校、生活、福祉施設及び産業振興のための投資的事業実現のための対応ができるよう、大綱の要旨が定められました。

この大綱の要旨については、昭和六十一年二月号「広報あさひ」にくわしく取り上げましたので、省略させていただきます。

町行政改革実施計画書

この町行政改革大綱の答申にしたがって、今回策定になった町行政改革実施計画書は、昭和六十二年度以降実施する項目について明確にするとともに、昭和六十四年度までの実施年度を定めたものです。実施項目は、次頁の表の内容となっています。



委員 佐竹ひでよさん
(夏草)



委員 海野 敬次さん
(元町)



副会長 堀 敏男さん
(大谷七)

- ① 民間委託による経費の削減及び職員削減への体制づくり
- ② 昭和64年度まで臨時職員の削減
- ③ 家族旅行村を含めて、行政課題として取り組まねばならない事業への対応
- ④ 電算化、機械化の積極的活用による事務の合理化
- ⑤ 職員錬成と指導の強化
- ⑥ 住民サービスの向上と適性化
- ⑦ 行政責任分野の明確化
- ⑧ 類似業務の統合化
- ⑨ 以上のことによる今後の経常収支比率の低下

2. 職員の職能向上のため、各種職員研修は別紙(省略)のとおり実施する。

給与の適性化については、年功序列型の昇任、昇給はない。また、毎年勤務成績の適性評価を実施し、人材の登用をする。

3. 民間活力を導入し、民間委託により経費の節減、事務の効率化を進め、人員の削減、住民のサービスの向上をはかるため次のことを実施する。

- (1) 町有財産の登記事務は、以前の事業施行による未登記の分について、昭和63年度より5ヶ年計画で、民間委託し登記をする。
- (2) 公用車運転業務については、昭和61年度において、路線バス事業のため運転士2名を従事させた。その他の運転士についても、今後効率的配置をし、町専用車の運転士は町長車のみとする。
なお、今後運転業務職員の採用はしないで、必要が生じた場合は民間委託とする。
- (3) 学校給食については、今後調理師の採用を見合わせるとともに、臨時職員の廃止、総合的な人事管理によって民間委託を実施する。
実施の年度は、現在の職員が退職した年度よりとし、実施学校は大谷小学校、西五百川小学校、和合小学校、宮宿小学校、上郷小学校、送橋小学校とする。
- (4) 病院の清掃リネン業務について、昭和64年度より民間委託を実施する。
- (5) 除雪業務については、現在の体制で当分は行っていくが、今後も検討していく。
- (6) 年間臨時職員は、全廃の方角で見直していくが、どうしても必要な臨時職員については、昭和62年度より時間給制とする。
- (7) 上水道本管工事については、昭和61年から63年まで、現場において説明等をしながら各業者を指導し、昭和64年度から実施する。

4. 家族旅行村を中核とした地域活性化を積極的にすすめるため、組織の構築をする。

- (1) 現在、朝日町家族旅行村管理運営検討委員会で検討中であり、その結果が昭和62年3月に答申される。その結果を待って実施する。
- (2) 特産品の研究開発については、昭和64年まで別紙(案)(省略)のとおり組織を構築し、家族旅行村での販売や全国ネットでの販売で、地域の活力と雇用の拡大を確立する。なお、家族旅行村管理運営等委員会の答申にしたがって、実施していく。
- (3) イベント(イカダ、溪流、ワイン)については、昭和64年度から、各民間団体が事務局も含めて運営できるよう誘導する。

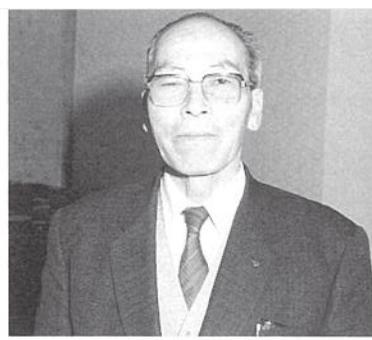
5. 町有財産の効率的な管理運営は、別紙(省略)のとおり実施する。



家族旅行村検討委員会の会議風景



委員 永井 一省さん
(大谷四)



委員 布施五郎左工門さん
(松程)



委員 清野 力二さん
(四ノ沢)

朝日町行政改革実施計画書

《昭和62年2月 策定》

この計画は「朝日町行政改革大綱」にもとづいて、昭和62年度以降実施する項目について明確にし、
町民の理解と協力を得ながら実施し、昭和64年度までに次のことを目標にして実施する。

【実施項目】

1. 事務の簡素合理化をはかり、組織の統廃合を進め、可及的すみやかに臨時職員の全廃を期し、新たな行政サービスへの対応を進めるため、次のことを実施する。
 - (1) O A化の促進のため「O A化促進検討委員会」の報告書及び「O A化推進プロジェクト会議の報告書にしたがって、一部民間委託を取り入れ、即時処理による総合情報システムを構築する。
 - ・昭和62年度中に、住民情報即時システムの導入を行う。
 - ・昭和63年度当初より、財務会計の即時システムの導入を行う。
 - ・昭和64年度中に、税務情報の即時システムを導入し、電算の分散化による総合情報システムを完成させる。
 - (2) 西・北部出張所の名称の廃止及び公民館活動の内容の充実をはかる。
 これまで行政組織上については、行政事務が主体となっていたが、現実には、地域振興を主に公民館活動が主体業務であった。今後、さらに生涯教育の充実を図っていく必要から、西・北部出張所の名称を廃止し、西・北部公民館の名称にするとともに、内容の充実を進めていく。
 行政事務については、昭和62年度に準備に入り、昭和63年度当初を目標として、窓口(住民、年金)業務、福祉業務、消防業務を本庁に移行することとし、一部行政事務については公民館職員が兼務する。
 - (3) 新たな行政需要のため組織の再構築をする。
 今後の新たな行政需要として、生涯教育の充実、高齢化社会の対応、家族旅行村の整備と活用、地域経済の活性化対策、後継者対策、都市との交流促進、新たな農業の創出等があり、これらに対応するため昭和64年度当初を目標に、組織の再構築をする。
 組織については、O A化や民間委託の推進、出張所の見直し、家族旅行村の開村の時期とともに再構築していく。
 - (4) 外郭団体からの委託事務については、別紙計画書(省略)のとおり実施する。
 - (5) 補助金については、別紙計画書(省略)のとおり実施する。
 - (6) 物品購入の効率化については、昭和64年度を目標に、出納室が用度係を兼務し、用品会計の充実をはかっていく。財政係は、備品の管理について適性に行う。
 - (7) 各種委員会、審議会、協議会については、別紙計画書(省略)のとおり実施する。



すでに導入されているO A機器

行政改革推進審議会の発足

昭和六十年十二月、町行政改革推進委員会が町に対して行政改革大綱を答申された折、付帯決議として二項目を付されました。

一、策定された大綱に基づいて、速やかに実施計画を策定すること。

二、この大綱が着実に実行されるように、朝日町行政改革推進審議会(仮称)を設置すること。

町ではこの付帯決議に基づき、規則により「朝日町行政改革推進審議会」を設置し、町民から委員七名を



3月3日に開かれた第1回の推進審議会風景

委嘱し、第一回の会議を去る三月三日に開催しました。審議会では、今後行政改革大綱及び実施計画書に掲げられた事項について、適正かつ計画的に実施されているかどうか調査審議をするため、必要に応じて随時開催することになっています。

町民の

理解と協力を

明日の朝日町のため、どうしても推進しなければならぬ行政改革ですが、改革は行政全般にわたるものであり、実施にあたっては町民の皆さんと非常にかかわりの深いものです。

したがって、町の行政改革の主旨を皆さんに十分理解していただくとともに、その目標とする町基本構想実現のため、協力を仰ぎながら実施していかねばなりません。

将来にわたって、朝日町が朝日町であるための、新たな土台づくりのため、皆さんのご理解をお願いいたします。

みんには 保健婦です

高血圧者訓練教室を 知っていますか

暖冬と言われた冬もそろそろ終ろうとしておりますが、二月二十四日(二十六日の三日間)高血圧者生活訓練教室が行なわれました。

この教室は、脳卒中を防ぐために、家庭生活で注意しなければならぬことや治療のうけ方などを仲間同士で話しあいながら体験していたく勉強会で、昭和五十年より始まり今年で第十一期(間一年休みあり)を迎えました。

寒河江保健所管内の各市町より血圧が高いと言われる者約二十名が、二泊三日の宿泊を通して、高血圧症について正しい知識と正しい食生活などを学びます。これにより卒業生百九十五名中脳卒中一名のみという素晴らしい功績を残しております。当町では、今年で三十四名参加し一名も脳卒中になつておりません。

それでは、受講者の感想を聞いてみましょう。

○塩分は家庭での半分位の薄さだが慣れると大丈夫。家に帰っても頑張りたい。

○ここに来て血圧がすごく下つてびっくりしている。

○食事作りは妻まかせ、家に帰ったら甘いとか塩辛いとかがけつけていきたい。

○妻が食改で習った料理はほとんど食べなかったが、これからは健康のために食べるようにしたい。

等々出されました。

また、この教室の卒業生によるOB会も結成され、年二回顔を合せ、認識を新たにすると共に、交流を通してストレス解消等に役立っているようです。

教室は毎年二月末に開催されておりまして、くわしくは保健婦へ問い合せ下さい。





統一地方選挙の 日程決まる

4月12日 県議会議員選挙(告示4/3)

4月26日 町議会議員選挙(告示4/21)

棄権せず、明るい選挙を推進しよう

一票を 生かして築く わが郷土

統一地方選挙の日程が決まり、四月十二日に山形県議会議員選挙、四月二十六日に町議会議員選挙が行われます。

棄権せず、自分で判断し、清き一票を投じましょう。

投票できるかた

山形県議会議員選挙では、昭和四十二年四月十三日以前に生まれたかたで、昭和六十二年一月二日以前に転入届を出したかたです。

また、朝日町議会議員選挙では、昭和四十二年四月二十七日以前に生まれたかたで、昭和六十二年一月二十日以前に転入届を出し、投票日当日、朝日町に住所を有するかたです。

ただし、朝日町の選挙人名簿に登録されているかたで、県内の市町村に住所を移した場合は、その住所移

転が一回限りであれば、県議会議員の投票は朝日町でできます。この場合、移転先の市町村が発行する「引き続き山形県内に住所を有する旨の証明書」が必要になりますので御注意ください。

不在者投票は 早めに

投票日当日に仕事や旅行など、やむを得ない用務や出産などのために、投票所に行つて投票できないかたは、それぞれの選挙の投票日の前日まで、不在者投票

ができます。

不在者投票は、午前八時三〇分から午後五時まで、土曜日、日曜日でも受け付けます。印鑑持参の上、町選挙管理委員会へおいで下さい。

なお、告示日前から長期出張等のため不在になるかたは、所在地の選挙管理委員会です。できる限り早めに、朝日町の選挙管理委員会に申し出て下さい。(告示日前でも、投票用紙の請求はできます。)

郵便による 不在者投票

身体障害者、戦傷病者の手帳を受けているかたで、

両下肢、体幹等の障害で一定の条件に該当する場合は、「郵便投票証明書」の交付を受けて、自宅で記入し、郵便で投票できます。該当すると思われるかたは、早めに申し出て下さい。

なお、この証明書の有効期限は、交付の日から四年間となつていますが、その期限が切れますと郵便による投票はできませんので、すでに交付を受けているかたは有効期限を確かめ、投票日前に期間が切れる場合は、再度、郵便投票証明書の交付を申請して下さい。

選挙に関する問い合わせは、町選挙管理委員会へ。(役場六六七―二一一)



よく見て



よく聞いて



よく考えて



投票しましょう



講演の前に白倉を視察する山崎氏

地域の観光資源は 身近な生活の中にある

「気狂」と「バカ」がそれを 掘りおこす

—地域開発講演会—

「地域産業と観光開発」をテーマとした、町地域開発研究会(会長 阿部宗一郎)主催の第二十四回地域地開発講演会が三月四日、中央公民館で開かれました。

講師は、東海大学教授で地域産業経済研究所長を務める、地域開発のエキス

パート山崎充氏。地域開発の具体例を上げながら、氏のズバリものをいう熱っぽい講演に、夜の七時という時間にもかかわらず、集まった百二十人の聴講者は真剣に聞き入っていました。

講演の内容を紹介します。

▼地域社会の崩壊は、じわじわと変化を見せず進んで行き、気付いた時には「あとのまつり」。室蘭、釜石市に見られる、新日鉄の経済不況による人口の流出化は「鉄は大丈夫」と言う神話がある。もう通じない時代の変化の象徴。地域の将来を、早めに考えることが大切である。

▼永続する企業の社長は、歴史の一コマを担い、次の時代のための経営を考える。企業を地域に置き換えると、社長は住民、そして経営はもろろん町づくり。カッブメンはもう二分で出来上がる時代だが、あせてはいけない。村おこし、産業おこしは、最低十年はかかることを認識し、評価は次の世代がしてくれるもの。

▼地域での観光開発は、経済効果が第一目的であって

はならない。町民全体の問題とならず、魅力のないものになる。経済効果は、あくまでも結果である。公共投資事業にみられる景気の立て直しは「産業関連波及効果」という。観光産業はシステム産業。ヤキトリのくしの役を果たし、鳥肉やねぎに刺して初めて一本の商売物が出来る。売る店には、更に肉やねぎを卸す店が出てくる。

▼地域開発のポイントとは、地域に「誇り」をもつことがまず大切。我慢できるもの、地域の特性は、案外身近なところにある、外から発見しやすい。そこに住む人々が楽しんでるもの、楽しめるもの、生活の臭いのする暮らしと、一体となったものが観光資源となりえる。

▼また一方、高齢化社会を先取りし、高齢者のもつ素晴らしい技能と経験を活用し、その役割をつくっていくことも大事。働く場、果たす役割がないところは、ゲートボールが盛んな町。

▼そして、更に大事なことは人づくり。「企業は人な

第十一回朝日町公民館大会が三月一日、中央公民館で開かれました。参加者は自治公民館の館長をはじめ、公民館主事や婦人会、若妻会の会員など二百五十人。

午前の部は「ヒトはなぜ子育てが下手か」と題した「イリオモテヤマネコ」の発見者で有名な、動物作家戸川幸夫氏の記念講演。サルやハイエナなど、野生の動物の世界に見られる、集団の中での親ザルの役割や子ザルへの愛情を、人間社会と対比しながら子育てのポイントを解りやすく説明。

午後は、「若者が定住する、できる地域づくりのためにどうすれば良いか」を共通のテーマとしたテーブル討議。具体的問題とその方策を、参加者は渡された



講師の戸川幸夫氏

動物作家 戸川幸夫氏を招いて 第十一回公民館大会

カードに書き、テーブルごとの話し合いでそれらを三項目にまとめ、発表し合いながら集約をしていくというもの。

働く場の確保が大きな課題だが、町から三十分内で通勤できる、広域的な中で企業の誘致を考えていくべき。そして当然、道路など交通網の整備が必要。地域の公民館活動としては、地元への定着やUターンを進めるためにも、郷土の良さを掘り起こしながら子供たちに伝え、地域を愛する子供の育成が大切。これらについて、熱心な意見の交換が行なわれていました。



熱心に話し合うテーブル討議風景

いま、朝日校で



赤いバラの花を胸にした卒業生

三月二日、左沢高等学校朝日分校の卒業式が同校体育館で行なわれました。今年の卒業生は五十八人。卒業生らは順に名前を呼び上げられると、すつくと立ち並び、岩木校長から卒業生の代表者に、三千四十四番号からの卒業証書が手渡されました。

「夜遅くまで準備に取り組んだ曙光祭、楽しかった芋煮会や山菜採りの思い出をありがとう。私たちが最後の二クラスの卒業生となるかもしれませんが、新しい三年生を中心として、こ

り」地域づくりも人が問題。住民を私流に分けると、気狂い新しいことを考え出す人
 患者＝足を引っ張る人
 愚者＝あたりさわりのない人、が存在する。

「気狂」と「バカ」が、今後の時代に生き残れる地域をつくるていくだろう。地域の活性化にとって大切なことは、彼等の暴れる舞台づくりを他ならない。

思い出を胸に 58人の船出



熱っぽい講演がつづく

の分校の良さをみんなでのばしていったください。」と、卒業生代表の最後のこゝろ、校舎の隅々にひびきわたっていました。

在校生の人数

	男	女	計	
2 学年	20	23	43	
1 学年	15	25	40	
計	35	48	83	
出身内訳	中部	16	17	33
	西部	16	26	42
	北部	1	4	5
	町外	2	1	3
今春入学志望者数	20	13	33	

卒業生進路状況

	男	女	計	
進学	大学	2		2
	短大		2	2
	各種学校	3	4	7
就職	県外	8	7	15
	県内	14	12	26
未定	内町内	4	4	8
	計	30	28	58



窓口業務が閉じられる山形朝日電報電話局

（注）NTT＝日本電信電話株式会社の略称。昭和六十年四月、公社事業から民営企業となる）

山形朝日電報電話局 局長 前田哲夫

の事業になお一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

昭和四十四年九月の開局以来「町の電話局」として町民の皆さんに親しまれ、育てていただいた山形朝日電報電話局が、NTTの経営方針により、昨年三月の河北局、大江局に引き続き、今月の二十九日（日）限りで窓口業務を廃止し、寒河江電報電話局へ統合することになりました。

統合後、電報電話利用の際の御案内については、区長さんをお願いしてお配りいたします。今後ともお客様の声を大事にして、電気通信サービスに万全を尽くしていきますので、NTTの御理解と御協力をお願い申し上げます。

3月29日（日）から

朝日電報電話局が

寒河江局へ統合

いたします。チラシに、まとめて詳しく掲載いたしましたので、ぜひお読みいただきたいと存じます。御不明な点がありましたら、御遠慮なく「116」をダイヤルし、御照会ください。十八年間にわたる長い期間、町民の皆さんから御愛顧をいただきありがとうございます。今後ともお客様



おいしいー



はじめてモチつきに挑戦



わたしもモチはだよ

たなな



ウラヤマシー

白倉スキー場が
今、東京に近づく

雪ん娘スキーツアー
と若者交流会



雪もどけそう



2月21日(土)、東京からのスキーツアー43名の皆さんが、今年も白倉を訪れました。

6年前から朝日町東京連絡事務所が主催し、都市とふるさととの交流を図っているものです。

早朝、朝日町に着いた一行は、高齢者センターで朝食をとった後、白倉スキー場でスキーやモチつき大会に楽しい一日を過ごしました。

夜は、町連合青年団主催の若者交流会に参加。地元の青年らとワインをかたむけながら、次は東京を会場にしての交流会をしようと、話が発展していました。



山形名物「いもこづる」も大人気



の研修生 国籠さんも参加



えっばえのめっちゃあ！えだぐっす



大井所長さんお疲れさま！



「腰をひいて」Tバーリフトの乗り方もていねいに指導



スキーはまず雪に親しむことから



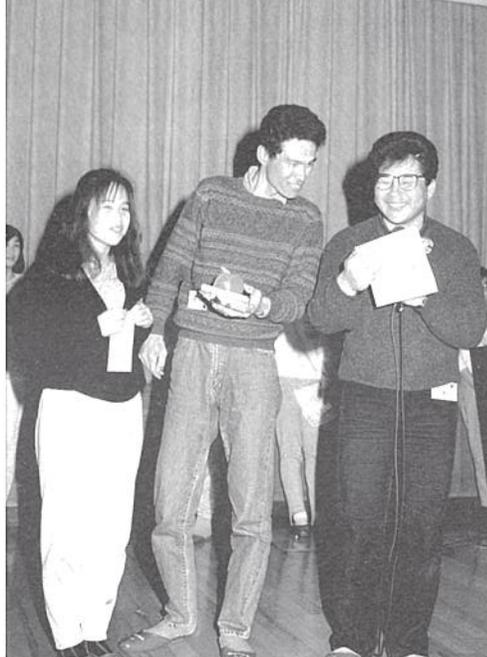
よくぞぎら

カメラあぐる



YBCラジオの取材に「また来年もきます」

はっす!! 雪ん娘ツア



なにすっとええなだけ。ヒ、ヒ、ヒ、ヒ(ゲーム)



21日の日が偶然にも誕生日の二人、みんなからケーキのプレゼント



もう歌をうたいたすグループ



ここは国際派、台湾から

春になると、悲しい別れや新しい出発で揺れ動く子供たちの姿が、町のあちこちで見られます。そんな時いつも、様々な困難にも打ち勝っていく力が、この子供たちに備わっていてほしいと願うのです。

家庭の姿が多様化している現代で、子供たちの成長にどんな家庭が望ましいのか、父母の役割を中心に、もう一度考えてみたいと思います。

家庭を 考えてみると

日本でも、ほんの半世紀ほど前までは、家庭内に家族各々が果たすべき仕事

が確立されていました。しかし現代のように家庭は仕事や学校から解放された憩いの場であり、自由な時間を過ごす所になってきたいま、家族はどのような役割を持って暮らしていけばいいのか、わからなくなってきたのではない

でしょうか。

朝日町には、どちらかというと三世代家族が多く、

世相の影響を受けやすい核家族に比べて、安定していると言われていきます。ところが、誰がどんな役割を

持つて子育てにあたるかが、しつかり形づくられている家庭は、案外少ないのではないのでしょうか。

祖父母は祖父母の、父親は父親の、母親は母親のはっきりとした役割分担がされていないければ、責任の所在はあやふやになり、子

供はむやみに甘やかされることになりかねません。

家業を継げばよかった時代は終わり、子供は自らの道を切り開かなければ生きていけない時代なのです。だからこそ、子育ては難しく、家庭で何を教えてきた

かが問われるのです。

親の役割

母

朝日町は共稼ぎの家庭が多く、子育ては、ばあちゃんに任せられているという母親が多いよ

うです。しかし、子供を成長させ、独立できるようにするのは両親の役割なので、すから、子育ては親が責任を持つてすべきでしょう。

特に母親は、子供に生活していく能力を身につかせ、情緒を育むことが大切です。手先を器用にすることも、行儀作法も、あいさつの仕方、みんな母親が教えるべきことです。そしてその能力は、一生涯持ち続けることができる大切なものです。

美しいものを見て感動したり、悲しい話を聞いて涙を流し、人に何かしてあげた喜びを、子供と一緒に味わうことができる母親は、素晴らしい教育者です。

失権時代の 父権喪失

母親の役割が明確なのに比べて、父親の役割がいまひとつはつきりし

ません。また極論ですが、父親がしつかりしていれば、子供はうまく育つとさえ言う人がいます。

その父親の役割とは、日本では家長なるがゆえに持ち得る父権であったと言えるでしょう。それに対し中国、インドでは、父なるがゆえに父権があり、父は死ぬまで礼をつくされたというのです。「身体髪膚、これに父母にうく」と中国では言い、「生みの親より育ての親」と日本で言うように、大きな違いがありました。したがって、日本では家長を譲った時、父権は喪失していききました。

それでは、現代の父親は隠居もしていないのに、どうして父権を持ちえないのでしょうか。

社会人類学者の中根千枝さんは、父権喪失について次のように言っています。

「子供が父親の仕事を見ることがなくなり、最も立派に見える父親が、仕事をしていない姿に接する機会がほとんどなく、父親像を貧しくしている。」

また、家族構成員が少なくなってきたことにより、父親と家族の距離が近くなったため、父親の権威が保たれ

いま、問われる

「家庭」のあり方

未来の朝日町を担う 子供を育てるために

なくなつた」

この様な社会の流れに、そむくことができないとしたら、父親は何をもって父親たる存在を示せばいいのでしょうか。

望まれること

父親に

幸い朝日町は、町内に仕事場を持つ父親が多いため、子供達にその仕事

ぶりを見せる機会が作られるはずですが、お父さんが精一杯働く姿は、子供たちに大きな存在として映るでしょう。

それでは、その姿を見せてあげられない父親は、どうしたらいいのでしょうか。

「お父さんがいないとつまらない。いろんな話が聞けないから」と言った子供

たちがいますが、せめて父親は、家庭の中でも知識の宝庫であり、人生の先達者であり、そして父親の姿を通して社会が見える様な存在であってほしいのです。

ですから、デパートや遊園地へ子供を連れていくだけでは、生き方としては希薄で受け身的です。積極的に、趣味やスポーツを子供と一緒に楽しむこともいいでしょう。新聞やニュースの出来事を話すのもいいでしょう。いずれにしろ、父親にはいつも後ろに社会があつて、ややもすると視野が狭くなりがちな家庭を、軌道修正し、家庭の行く先を決定する重要な役割が望まれているのではないのでしょうか。

てを楽しんで

子育て

「お父さん、お母さん、子育てを楽しんでいますか？」そんな質問をしたところで「忙しくて、それどころでない」と

反発されるのがおちでし

う。しかし、それではあまり稼ぐだけの、つまらない生き方ではありませんか。ほんのちよつとした時間でもいい、大人も遊び心を持って子供と接してみてもいいがでしょう。

例えば、子供の朝の本読みで「その話のグミの実、お母さん、ある所知ってるんだ」なんて言うと「本当？どこ？」子供は目を輝かせます。そのうち子供は、お母さんを追っかける様にして読んでゆくはずですよ。

また少し時間があつたら一緒に散歩してみましよう。家の周囲には、子供の頃遊んだ山や川があります。子供に帰ったつもりで遊んでみてください。自転車で、子供と町内巡りはどうでしょう。今まで知らなかった文化や自然に触れ、きっと子供は朝日町が好きになるでしょう。

郷土を愛する子供たちが、未来の朝日町を担っていく、それが親や町の望みではないでしょうか。

(教育広報委員 西沢 敬子)

お父さんとのふれあいの場として、保育園での父親学級も行われている





ステージと客席は一体

地域の“活性化”も
こんなところから

拍手と笑いの大合唱

北部地区素人演芸会



「りんご節」の踊りで幕を開けた北部地区素人演芸会が、三月八日(日)、北部公民館で開かれました。日頃、公民館の文化教室などを中心に練習している踊りや歌を発表し合い、楽しい一日を過ごす中で、地域の活性化にも結びつけたいと始まったこの催しも、今年で八年目。これまでにない二百三十名もの出演者とファンが詰めかけた客席は、足の踏み場もない盛況。詩吟、民謡、コーラス、ジャズ体操と、華やかな衣装で次々と繰り出す発表に、客席から「はな」も投げ入れられ、それを拾うしぐさにも会場は拍手と笑いの渦。「出演者も観客も一緒になって楽しめ、みんなの顔もいきいき。こうした催しは、今後もぜひ続けてほしいですね」と、来場者のひとりには語ってくれました。

「パシッ」盤上に熱戦

「手」をよむー町民囲碁・将棋大会

囲碁の部に十四人、将棋の部には十六人、合わせて三十人の愛好者が参加して、第二十八回町民囲碁・将棋大会が三月一日、中央公民館で開かれました。

参加者数は、ここ数年横バイの状況だが、中学生から八十一歳のかたまでと、年齢層の幅が広いのがこの大会の特徴。それぞれのク

囲碁の部
 ▼Aクラス(有段者) 小関 敬二(新宿)
 ▼Bクラス(一級以下) 菊地 洋一(大谷一)
 将棋の部
 ▼Aクラス(有段者) 鈴木 勉(前田沢)
 ▼Bクラス(一級以下) 横山 正義(立木)
 ▼Cクラス(四級以下) 熊谷 良作(前田沢)



「どうだこの手は」と駒の音(将棋)

小さな善意を大きな輪に

常盤地区の一円玉募金運動



1円玉がどっさり、2月23日「めぐまれない方のために役立てて下さい」と町へ届けられた

常盤、夏草、長沼の三区は今年度、県の地域福祉推進事業のモデル地区として指定を受け、身近な福祉活動に取り組んでいます。去る一月十八日には、地元の子供たちや長寿クラブ、婦人会、青年団など百人が西部公民館に集い、お手玉づくりや凧づくり、もちつきや演芸会を一緒に楽しみ、

三世代の交流を図りました。また二月十五日には、同地区の推進員十六名が上山市の推進地区「中川福祉村」などを訪問、地域の福祉のあり方を学びました。

このような中、「福祉活動の輪を、地域の人みんなに広げよう」という推進員の呼びかけで、「一円玉募金運動」を行ったところ、三区区のほか西五百川小学校の児童会にも広がって、総額四万四百七十円の大きな一円玉となりました。

今日の顔

白倉スキークラブの、3人目の公認スキー指導員となった



常盤

阿部為吉さん

119番。このたび秋田県の田沢湖スキー場で行なわれた、年一回の東北地区基礎スキー指導員検定での阿部さんのゼッケン番号。「合格者が番号で順に発表され、自信はあったが、この番号が聞こえた時、さす

がにオレも身震いした」と、記念のゼッケンを手に浅黒い雪焼け顔が語る。十種目の滑走実技のほか、指導理論や気象法、救急法などの学科試験が三日間にわたる。準指導員の認定から三年の指導経験を経ない

体力テストで活動をチェック スポーツ少年団

昭和67年に、本県で開催される「ペにばな国体」をめざして、スポーツ少年団などのスポーツ活動も、年々活発になってきていますが、スポーツは競技をひとつの手段としながら、体育の向上を本来のねらいとしています。

3月1日(日)、町民体育館を会場に、体力テストを中心とした、町内スポーツ少年団の交流会が行なわれました。

剣道少年団など十団体から参加したスポーツ少年60人は、立ち幅とび、上体おこし、腕立てふせ、時間往復走、五分間走の五種目に挑戦。お互いの記録カードを見比べながら、日頃の活動による体力の向上を確かめ合っていました。



「ウツツ」もう一回で20回(腕立てふせ)

と受験できない、指導者認定の最高峰。一つのスポーツに全人格が問われる。三〇四人中、一八〇人が合格。「高校以来の受験勉強の日だったので、家に帰ったから一日ボーとなった。合格したからと言っても、スキーを全部マスターしたわけではない。更に技術と指導性の向上が要求される」現在、最年少の町の議会議員でもあるが、もう一度、生業である農業経営に専念する決意をし、四月の選挙への立候補を断念。16番の先生より、自由人としての指導者のバッジを選んだ。

「一笑一若」で暮らそう

「技」も展示

高齢者福祉大会

高齢化社会の問題を高齢者自ら学習し、自分の趣味や特技を発表し合おうと、町長寿クラブ連合会が主催する高齢者福祉大会が、去る二月十八日農業団地センターで開かれました。

作りの作品が展示され、生活の知恵者の、技能のすばらしさを見ることができました。これらの作品は、今月末から県物産会館で開かれる民芸品博覧会に出展されます。

たホールでは、午前中は「校長先生は馬に乗って」で有名な、白鷹町の小関太郎氏の講演が行なわれ、「一笑一若、笑いのある暮らしをもつことが、若返りの秘けつ」という氏の話に、参加者は真剣に聞き入っていました。午後は、民謡などのアトラクションで、楽しい一日を過ごしました。

また、三原山噴火で被災した伊豆大島へ、少しでも愛の手をさしのべようという会場募金の呼びかけに、総額五千八百七円の善意が寄せられ、県の老人クラブ連合会を通して現地へ届けられました。

一方、会場入口には、あけびやまたたびの木のつる細工、はげご、御殿まり等、会員の特技を生かした手



すばらしい作品がズラリノ

今年統一地方選挙の年であり、わが朝日町の議会も改選期である。町報

二月号で、阿部宗一郎氏がイギリスの政治学者の言葉を用いて「政治は選挙民の水準以上の政治はできない」と指摘されましたが、正にそのとおり。選ぶ方(有権者)の識見が高ければ高いほど、選ばれる代表のそれも比例するのではないだろうか。これは国政はもちろん、地方議会にも言えることです。

政治参加としての選挙

統一地方選を前に、もう一度選挙の意義と

議と言うものを考えてみたい。

わが国の憲法の前文には「主権が国民に存することを宣言し」云々と謳われています。私たちが常に耳にする「主権在民」。主権在民の私たちであるが、政治に直接参加はできない。選挙権の行使、いわゆる投票という形で間接参加しています。投票用紙の小さな紙一枚には参政権という重要な意義が込められ、その投票

の結果如何によつて、政治のやり方や進路が決まると言つても過言ではない。

国政の参議院を除き、ほとんどが四年の任期。この四年間に政策の決定、法律、条例の制定、改廃等重要な案件が承認され、その決定された政策や法令は長く続く訳である。このことが私たちにプラスになれば良いが、マイナスの方へ進む恐れなきにしもあらず。そんな

栗木沢 遠藤 貞悦 (45才)

なことになれば、私たちは負担を強いられることになる。したがつて選挙時には、人格があり見識の高い、政治責任感のある候補者を選び、議会に送るべきである。完全無欠の聖人君子を求めらるわけではないが、より理想へ近い人を選ばなければならぬ。

ドイツの文芸評論家ヘルネは「政府は帆であり、国民は風であり、国家は船であり、時代は海である」と

言つた。実に見事な表現であり名言である。これを町に置き換えて言うならば、朝日丸という船の、町と議会と言う帆に、町民(選挙民)の風を受け、円高不況という時代の荒海を乗り切つて行く姿が連想できよう。国民、町民(有権者)の送る風によつて、帆船もある程度、制御できるのではないだろうか。

選挙戦にはかなりの関心を示す有権者も、投票が済めばわりと無感心になりがち。自分たちの選

んだ代表者がどんな活動をしているのか、もつと目を向けるべきだと思う。幸いにしてわが町は、各選挙とも県下でも有数の高投票率の町。それだけ政治に対する意識が高い訳であり誇れることだ。

政治参加としての選挙の意義を再認識し、選挙を通して、真の私たちの「アルカディア山形」「アルカディア朝日町」をつくらうではないか。

活発に青年議会 積極的な地域づくりの参画 明るい選挙の推進を 満場一致で決議



青年議会風景

議会という政治の場を身近なものとし、青年の声を町政に反映させようと、町連合青年団主催の青年議会が三月一日、町議会議事堂の本舞台で開かれました。

いつもと代わつて、町議会議員らが傍聴席で聞き入る中、一日議員となった二十名の青年らは、加藤正彦副団長を議長に選んだ後、小林町長から最近の町政について報告を受けました。

当日は、町の公民館大会



堂々と一般質問する青年議員
と重なつたこともあり、ここで一端休会とし、参加者らは同大会での記念講演を聞くという議事日程。
青年団では、一月末から実行委員会を設け、日頃の活動での疑問や青年の意識調査の中から、質問や意見を取りまとめたもので、午後から再開となつた議場の壇上では、熱の入つた一般質問が行われました。
「Uターンする若者も少しづつ増えているが、町内に望む職場が求められず、また逆ターンする若者も見られる。役場の臨時職員の採用も、行政改革の上から控えると聞くが矛盾するのでは。若者定住のための、きめの細かい現実的な対策



二月十八日
付け山形新聞
で、朝日町の
六十二年度新

昨年の秋、区長会から出された町議会議員の定数削減問題は、大山鳴動ねずみ一匹も得ることなく、四月の改選が目睫に迫ってきた。しかし、毎回のことながら立候補予定者数がありにも少なく、ことによると定員だけの無投票になりかねない。あるいは一人くらい多い選挙となっても、本当の選挙の意味がうすいように実にはさびしい。

選挙に思う

衆参両院や県関係等の選挙では、いつも県一の投票率だとホラ吹く町民にしては、どういふことなのだろう。自前の町議会選挙で、もっと多くの候補者で戦い、政治を活発なものにしようという勇気が出ないのは、町民が本気で選挙に取り組んでいるのだろうか、町政のさびしさが、益々濃くなるようではかたがない。

予算案が三十一億三千万円と発表された。しかし歳入の中での町民税は、毎年のことながら一割自治の力しかなく、歳出では公債費が大きな額を占めている。町民の活力となる投資的予算が思いのほか少なく、財政においても、バラ色の未来にはほど遠い感じがした。阿部宗一郎氏が再三にわたり、議会のあり方についてくわしく解説され、なる

議員さんは、真の職責を果たすことはむずかしいのではないかと思う。そのことは、私が議員であった当時取り組んだ、町の職員問題等とその矛盾さを痛切に感じとってきたからである。私は重ねて皆さんに訴えたい。議員削減問題では、有権者の七五%の賛成があった。私もその中の一人である。しかし、削減もさることながら議員たる者の質をただし、神聖なる議席に座っているただくには、単なる名譽欲や私利私欲にかられない、清潔で高邁な、そして町民の幸せのために情熱あふれるかたがたの立候補を望むものである。言論の中から一割自治を吹き飛ばす、活気ある提言が出てくるような議会を期待する。

有権者の皆さん、今からでも遅くはない。町の活性化のために、たくさん立候補して、させて、まず選挙戦を活発なものにしていただきたい。

最後に、決議案が上提。「青年は積極的に地域づくりに参画し、明るい選挙を推進します」を満場一致で決議し、閉会しました。

(広報委員 柴田泰子)

リンゴとワインの家庭料理

⑫ リンゴの豚肉巻き 甘酢あんかけ

■材料

- 豚ロース(うす切り) 300g
- リンゴ 1.5個
- 甘酢あん
- しょう油 大さじ2
- 酢 // 5
- ケチャップ // 2~3
- 砂糖 // 2~3
- 水 // 5
- 水溶きかたくり粉 小さじ1
- グリーンピース・揚げ油

■作り方

- ① リンゴは皮をむいて、1~1.5cm くらいの長方形またはくし型に切り、豚肉で巻いてつまようじでとめ、かたくり粉をつけ、油で揚げておく。
- ② なべに甘酢あん調味料を全部合わせ、火にかけ、あん汁ができたなら、①のつまようじを抜いた肉を入れ、あんをからめて火を止め、盛りつけてからグリーンピースを散らします。熱いうちにお召し上がりください。
- ③ 肉を揚げる時、中のリンゴを揚げすぎないように!

町外選手24人も参加して 白銀の白倉に挑む 第3回白倉スキー大会

2月15日(日)、第3回白倉スキー大会が開かれました。今年も町外からの参加者24人を含む139人の選手が、白銀にダイナミックなタイムレースを展開しました。

上位3位までの成績は、次のとおりです。



表彰式風景

《回転》

■小学4年女子

- 1位 長岡 陽子(白倉スポ少)
- 2位 佐竹さおり(")
- 3位 清野 貴子(")

■小学5年女子

- 1位 遠藤 厚子(大谷小)
- 2位 志藤 麻美(白倉スポ少)
- 3位 佐久間知子(大谷小)

■小学6年女子

- 1位 志藤 春美(白倉スポ少)
- 2位 鈴木 みき(上郷小)
- 3位 岡崎 千春(白倉スポ少)

■中学女子

- 1位 阿部美奈子(白倉スポ少)
- 2位 海野 尚美(")

■高校・一般女子

- 1位 大木みどり(南陽SC)

2位 長岡 成(常盤)

■小学4年男子

- 1位 伊藤 礼人(月山スポ少)
- 2位 佐藤 信吾(")
- 3位 菅野 清盛(")

■小学5年男子

- 1位 鈴木 靖人(白倉スポ少)
- 2位 安藤 昌幸(")
- 3位 渋谷 憲智(月山スポ少)

■小学6年男子

- 1位 大泉 良幸(月山スポ少)
- 2位 海野 敦史(白倉スポ少)
- 3位 松尾 雄二(")

■中学男子

- 1位 佐竹 悟(白倉スポ少)
- 2位 長岡 孝明(")
- 3位 柴田 広幸(")

■高校・一般男子

- 1位 大木 幸夫(南陽SC)
- 2位 小川 典道(ハイジSC)
- 3位 柏倉 敬一(朝日分校)

《大回転》

■小学6年男子

- 1位 大泉 良幸(月山スポ少)
- 2位 長岡 孝明(")
- 3位 黒田 治臣(")

■中学男子

- 1位 佐竹 悟(白倉スポ少)
- 2位 長岡 孝明(")
- 3位 柴田 広幸(")

■高校・一般男子

- 1位 安孫子幸弘(山形商業高)
- 2位 大木 幸夫(南陽SC)
- 3位 小川 典道(ハイジSC)

- ▽中学生シングルス
 - 男子①工藤 清隆(元町)
 - ②長岡 裕二(太郎一)
 - ③岸 道雄(石須部)
 - 阿部 容一(夏草)
- 女子①長岡 香織(太郎一)
- ②志藤二三枝(能中)
- ③岸 智江(石須部)
- 多田 詩穂(太郎三)

- ▽小学生シングルス
 - 男子①長岡 拓(西町)
 - ②佐竹 秀文(松程)
 - ③浅井 将樹(元町)
 - 阿部 洋二(西町)
- 女子①宮本千代子(八ッ沼)
- ②安藤あや子(元町)
- ③佐竹 律子(八ッ沼)

- ▽団体戦①太郎チーム
 - ②常盤チーム
 - ③三中チーム
- 成績は次のとおりです。

団体戦

太郎チームが優勝

町民卓球まつり

- 第二十四回町民卓球まつりが三月八日(日)、町民体育館で開かれました。
- 百五十人が参加した会場には、親子の姿が多く見られ、和気あいあいの中にも、気合の入ったスマッシュに、大きな拍手が送られていました。

- ▽一般男子シングルス
 - ①長岡 和男(太郎二)
 - ②鈴木 暢明(西町)
 - ③鈴木 憲二(西船渡)

- ▽夫婦ダブルス優勝
 - 浅井周作・澄子組(元町)
- ▽シニア・シングルス
 - 男子①鈴木 藤七(西町)
 - ②浅井 周作(元町)
 - ③鈴木 征明(元町)
 - 大井 忠夫(太郎三)
- 女子①宮本千代子(八ッ沼)
- ②安藤あや子(元町)
- ③佐竹 律子(八ッ沼)



団体戦の試合風景



贈られたゼッケン

リンゴとワインのゼッケンを寄贈

朝日町東京連絡事務所として、事務室の一室をお借りしている東京の友井商事(株)さんから、スポーツの振興のために、町ゲートボール愛好会へ、二十万円相当のゼッケンとボール六組。また町若妻会へ、六十万円相当のバレーボール用ユニホーム四十五着が寄贈されました。

それぞれの団体では、リングとワインの絵がはいった、朝日町にふさわしい贈り物に大喜び。大会等では町のPRにもなり、町の看板を背負ったの競技出場に益々頑張りたいと、代表のかたは語っています。

古道を さぐる

34

母なる川よ 最上川
永遠に流れて 故里の
四季を織りなす 神の業
肥沃の緑野 育みて
時には怒り ほほえみて
人間模様の影写し
出羽の産土 舟に積み
京の文化を取り入れて
歴史は遠く いく歳ぞ
聖なる川よ 最上川

私たち郷土の人々は、先祖以来数百年間、最上川の恩恵を直接、間接に受け継いで生きてきた。ここに生まれ育ち、この土地を生活の舞台として活動してきたのである。

さて、この母なる川最上川の源流はどこであろうか、地図の最上川をさかのぼりながら探してみよう。

吾妻山(標高二、〇三五m)が虚空にそびえている。こ

の西吾妻山の一角に岩間もる赤滝、黒滝という一筋のせせらぎがある。これを名無川という。この清流が大樽川となり松川に流れこみやがて長井市付近で白川に合流する。

この畷境に近い名無川の双滝溪展望台の頂上に「最上川源流」の大標柱が建っている。ここが全長二一六キロの最上川の源点である。通常白鷹町の荒砥付近まで

水の古道 最上川①

白鷹町黒滝 朝日町中沢

を松川と呼び、その下流が最上川と名付けられている。さて、もがみの語源はなんだろうか。古書「和名抄」によると「毛賀美」と書いてある。これはアイヌ語で「毛」は岩のこと、「賀美」はくしきこと、珍しいことであると。まとめると「珍しい岩石の多い所」となる。

白鷹町の黒滝付近から下



昔の難所お八天

難所であった。洪水ともなれば濁流渦を巻いて万物を流した。川は生きている。大自然四季折々の影を写し、また人間の哀歓を色濃く写して永遠に流れる。

川は古來物資輸送の大動脈であった。一言にして言えば、最上川は塩と米と紅花の水の古道であった。五百川地方からの下り荷は、古くはうるし、うるしの実、江戸中期以後は青芋、米、木炭、蓄、木材等であった。上り荷としては、塩をはじめ塩魚、干物、木綿、金物、砂糖、雑貨類であった。米は上杉藩として最も力を入れた移出品であった。五百川郷の青芋は、新潟、京阪でも好評を得た。(つづく)

(広報委員 長岡幸助)



△西吾妻山(2035M) (赤滝・黒滝)



すっぴやかに

(出生届)

62年2月1日〜2月28日届出
区名 出生者氏名 父名
舟渡 堀 裕司 久雄
大町 峯田千恵子 重美
西町 高橋 宏彰 久美

やすらかに

(死亡届)

区名 死亡者氏名 世帯主
宇津野 鈴木 功 隆 治
小原 菅野チヨム 昭 夫
大谷五 長岡 かね 金 一
常盤 稲村タマノ 幸 子
四ノ沢 清野宗太郎 和 雄
大谷五 白田ヨシ子 多喜男
大谷五 白田 長雄 よ の

人口と世帯数

(2月28日現在)

大谷三 長岡あきる 孝
中沢 堀 むち オヨウ
杉山 安藤 みん 光 雄
○人口 一、〇二八八
男 五、四九二人
女 五、五三六八
○世帯数 二、六二四世帯



86年産 凍果吟醸

アイスワイン

《極甘口》

3月11日

特別限定発売



ワイン愛好家から待ち望まれていた、86年産アイスワインが、三月十一日に発売。
アイスワインは、糖度の高いぶどうを人工凍結し、余分な水分を取り除き、濃厚で香り高い果汁のエッセンスだけを低温発酵させたものです。糖度は普通の三・五倍と、極甘口で女性向き。果汁一〇〇%で、口当たりがさっぱりしているのが特徴。
朝日町ワインの醸造元・山形果実酒製造(有)が、一昨年から特別限定で醸造しているもので、今年も、白、ロゼそれぞれ五千本を発売。価格は、白が二千円、ロゼが千五百円です。最寄りの酒屋さんでお求めください。

- 長井市の高子啓介さんから、水本小へ長机や白布、スリッパなど十五万円相当の学校備品。
- 宮宿小の六十一年度卒業生から、母校へ七万円相当のグララド整備用ローラー一台。
- 宮宿小学校区子供育成会から、同校へ二十万円相当の学校案内用表示看板。
- 大隅の近衛正雄さんから、和合小へ三万円相当の学校全景航空写真。
- 宇津野の佐竹恒男さんから、上郷小へ三万五千円相当の学校の全景航空写真。
- 送橋小の六十年・六十一年度卒業生から、母校へ一万五千円相当の花台。



四ノ沢の清野たけよしさん(75歳)から「町長室に飾ってください」と手作りの御殿まりをいただきました。

- 本町の鈴木綾子さんから、中央公民館へ二万一千円相当の織部の紅鉢型風炉。
- 大谷六の白田とくさんから、町立図書館の図書購入に使ってくださいと現金一万円。
- 大舟木、今平地区に野菜等の委託栽培をしている丸正食品(株)社長の飯塚正司さんから、町内道路整備に二千万円相当の敷き砂利。
- 町長寿クラブ連合会の婦人部から、社会福祉協会へ手ぬいの雑きん千百枚。これらは、養護老人ホーム「明鏡荘」や病院、学校施設にお届けします。
- 常盤の稲村幸子さんから、社会福祉協議会へ現金五万円。また、朝日町育英会へも二万円。
- 長井市の(株)協同測量社さんから、三十五万円相当の地籍調査用測図システム備品。
- 新潟市の(株)日本ケールさんから、十万円相当のスキー競技用ゼッケン一〇〇枚。
- 山形市の山形小松重車両(株)さんから、六十九万円相当の除雪機械用スチーム洗車機一台。

あさひの窓

▼弥生三月というが、弥生は別に「花見月」とも言われるように四月後半にあたる。三月を陰暦で言えば二月の雪消(ゆ)月になる。雪どけの音も木の芽のふくらみも、新しい世界への出発を啓示しているようである。

▼「雪を洩(も)る日」のひとすぢや卒業す(大野林火)。三月はまた卒業の季節でもある。別れのかなしみと明日への希望と、交錯した心情をこめて卒業式は進められる。「立つ鳥あとを濁さず」ということわざがある。立ち去る者は後始末をして、きれいさっぱりと旅立て、という意味である。心のこりなく新しい世界へ向って巣立ってほしい。

▼四月は選挙の月。朝日町における新しい出発のための選挙となるかどうか。単なる私情にたわわれず、確かな眼と耳で候補者の人間をとらえて投票できる町民となるか。町議としてふさわしい識見と情熱を持った候補者となるか。まさに選挙とは人間をみがき合う道場でもある。

▼アイデアとか知恵とか「質の変革」が求められているが、このためには思考の転換が必要である。今までのことを考え直すことである。このことなしには新しい世界への出発もない。(杉)